

第1回Summer Institute（韓国短期派遣事業）に参加して

●筑波大学 中元 浩平

①応募したきっかけ

Summer Instituteに応募したきっかけは2つありました。一つ目は、以前私の研究室に、Winter Instituteを通じて滞在した韓国人学生の存在です。彼らとの交流を通じて、今度は自分が韓国に滞在し、あちらの大学院生と交流を持ちたいと強く感じました。二つ目は、異分野の研究を学び、知識、視野を広げることでした。

②事前準備

私のソウル大での研究テーマは「ES細胞刺激電極の作製」というものでした。ラボの方とは事前にメールで大まかなテーマを決め、関連する論文を読んでおきました。今となって思うことは、この事前の打ち合わせによって滞在中の研究活動が非常に有意義なものになるということです。私の場合は渡航前にもう少し細かい部分まで打ち合わせしておくべきだったと感じています。

③現地研修

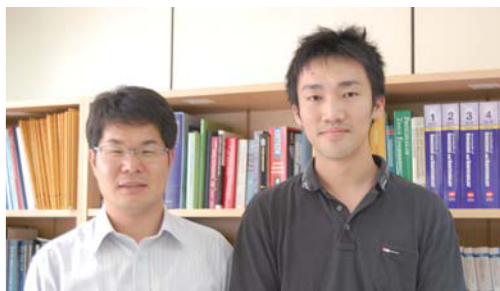
渡航後、最初の3日間は文化研修、それ以降は研究研修を行いました。文化研修では韓国民俗村や国立博物館を訪れ、韓国の歴史や文化について学ぶことが出来ました。研究研修では、主にナノインプリント法と呼ばれる新規な微細加工技術を学びました。この技術は様々な分野に応用することができ、私の日本での研究にもぜひ生かしたいと考えています。しかしながら、やはり一番の研修は、研究室の学生と一緒に居酒屋で焼酎を飲み交わしたことだと思います。その中でお互いの文化、最近の流行について話ただけでなく、政治に関する話題も話しました。政治についても話し合うことが出来た理由は、お互いに信頼関係を作ることができた結果だと考えています。

④この研修を通じて得たもの

韓国滞在で得ることができた人々とのつながりが一番の財産です。お世話になったSuh先生、Jung先生はもとより、研究室の学生との交流は忘れられないものですし、これを一生の関係にしたいと強く願っています。彼らとの交流で、韓国人の物事の考え方、また日本に対する思いなどを直接知ることが出来ました。同時にそのような場面で、自分のこと、また自分の国に関する意見を常に持つておかなければいけないと感じました。

⑤参加する人へのアドバイス

海外で同年代の学生と交流できる機会を与えてくれる“Summer Institute”は、自分の視野を広げるとても有意義なプログラムだと思います。予想もしない苦労や困難もありましたが、それらを考え、解決することで、自分自身が成長できたと思います。ぜひ学生のうちにこのような体験をしてみたいかがでしょうか。



▲ 執筆者（右）と指導教授



▲ 学生達と

委託：日韓文化交流基金

主催：日韓産業技術協力財団

企画：JISTEC